

授 業 科 目 名	美術科教育法概論Ⅰ (Art Education I)		
科 目 番 号	9473001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2・3 年次
実 施 学 期	秋 A	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	山木 朝彦		
オ フ ィ ス ア ウ ー			
授 業 の 到 達 目 標	表現領域と鑑賞領域の題材の編成のあり方を理解し、良質な題材を開発するために求められる基礎知識と技能を習得する。このことを通じて、中学校・高等学校における美術教育の実践的指導力を養う。		
授 業 の 概 要	美術科の授業実践の基本となる授業構想と教材開発の方法を鑑賞領域における具体的な題材の検討によって学習する。学習指導要領の内容の理解等、美術の指導に必要な基礎知識を習得する。		
授 業 計 画	第1回： 美術科教育の基礎としての児童画理解 第2回： 児童生徒の発達と表現及び鑑賞領域の関係 第3回： 児童観の変遷を踏まえた学習指導要領の基礎的理解（評価の目的とルーブリックづくりの方法など） 第4回： 中学校・高等学校の鑑賞領域についての検討および美術館活用の方法 第5回： 鑑賞領域における授業構想段階における基本事項と授業の準備（教材研究と情報機器） 第6回： 鑑賞領域における授業展開の方法(1)比較に基づく鑑賞と批評力の育成について 第7回： 鑑賞領域における授業展開の方法(2)ワークシートの制作と利用 第8回： 鑑賞領域における授業展開の方法(3)対話を基調とする方法 第9回： 鑑賞領域における授業展開の方法(4)表現領域の学習に繋げる工夫 第10回： 表現領域及び鑑賞領域における教育実践力の習得に必要な基本事項(指導案作成と模擬授業) 定期試験(論述式)		
成 績 評 価 方 法	プレゼン等活動の状況(内容に含まれる仮説・提案・説明の妥当)50%, 論述試験 50%とする。		
テ キ ス ト	1.中学校学習指導要領解説 美術編(最新版)(冊子体もしくは文科省サイトの pdf 資料を印刷したもの) 2.授業中の配布プリント なお, 1については各自用意しておくこと。		
参 考 文 献	『美術科教育の基礎知識』(建帛社・2010 年)、E.W.アイズナー著、仲瀬律久他訳『美術教育と子どもの知的発達』(黎明書房・1986 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、「高等学校学習指導要領」(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	図書館あるいはインターネットを利用した、芸術関連用語および教育関連用語などの語句調べ。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	積極的に自らの考えを述べること。そして、グループワークを能率良く行うこと。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応します。		

授 業 科 目 名	美術科教育法概論 II (Art Education II)		
科 目 番 号	9474001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2・3 年次
実 施 学 期	秋 B	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	渡邊 美香		
オ フ ィ ス ア ワ ー			
授 業 の 到 達 目 標	授業立案のための基本的な知識・能力を身につける。		
授 業 の 概 要	この授業では、主に中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における教材開発から授業実践までに必要となる、様々な知識と方法について広く学ぶ。		
授 業 計 画	第1回:オリエンテーション 第2回:美術学習の方法 第3回:美術学習の実践例 第4回:美術学習の批判的検討 第5回:模擬授業案の作成(教材研究と情報機器) 第6回:美術学習における評価 第7回:指導案作成上の基本事項 第8回:授業の構想と指導案作成 第9回:模擬授業の実践 第10回:まとめ		
成 績 評 価 方 法	活動の状況(積極性)40%、レポート60%		
テ キ ス ト	必要に応じて授業時に紹介する。		
参 考 文 献	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、「高等学校学習指導要領」(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	授業内で作成した模擬授業指導案の内容について各自検討し、次の講義までに加筆、修正を含め、意見交流する内容を準備すること。必要に応じ、参考作品を持ち寄ること。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの1単位に対応します。		

授 業 科 目 名	美術科指導法Ⅰ (Teaching Method of Art Education I)		
科 目 番 号	9475001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2・3 年次
実 施 学 期	秋 B	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	箕輪 佳奈恵 (芸術学系棟 B538 Tel 853-2834) 電子メール minowa*@geijutsu.tsukuba.ac.jp 直江 俊雄 (芸術学系棟 B331 Tel 853-2821) 電子メール naoe*@geijutsu.tsukuba.ac.jp (*は削除して使用すること)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	箕輪: 火曜日 12 時 30 分 ~ 13 時 30 分 直江: 水曜日 12 時 30 分 ~ 13 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	美術文化にかかわる題材を考案するとともに、それを授業に応用する能力を身につける。		
授 業 の 概 要	この授業では、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における授業実践を想定して、特に美術文化を取り入れた題材の考案に取り組みます。		
授 業 計 画	第1回: 受講案内 第2回: 学習指導要領の解釈 第3回: 美術科授業と美術文化 第4回: 美術文化活用の方策 第5回: 題材の構想(教材研究と情報機器) 第6回: プレゼンテーションの準備(指導案作成) 第7回: プレゼンテーションの実演(模擬授業) 第8回: 相互批評 第9回: 題材のモデル化 第10回: まとめと課題		
成 績 評 価 方 法	授業内で取り組む小レポートその他の提出物(60%)、期末課題(40%)		
テ キ ス ト	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、 「高等学校学習指導要領」(最新版)		
参 考 文 献	必要に応じて授業時に紹介します。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	日常生活にあふれる美術文化について、意識的に見て考えをもつようにするとよいでしょう。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	講義全体を通してグループでの活動を行いますので、人の意見を聞くこと・自分の考えを発信することが求められます。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応する。		

授 業 科 目 名	美術科指導法 II (Teaching Method of Art Education II)		
科 目 番 号	9476001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2・3 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	月曜・6 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	直江 俊雄 (芸術学系棟 B331 TEL 853-2821) 電子メール naoe*@*geijutsu.tsukuba.ac.jp *@*の*は削除して使用のこと。 研究室 URL <a href="http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/">http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/</a>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12 時 30 分～13 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	美術科指導の基礎となる、幼児から青少年期までの発達についての基礎的な知識と洞察力を身につけ、美術学習の意義について認識する機会をもつ。		
授 業 の 概 要	この授業では、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における学習指導の基礎となる理論や方法について、様々な活動を通して学ぶことができる。とくに、青少年期までの美術学習を振り返り、その意義を考えていく活動を中心とする。		
授 業 計 画	第1回: 受講案内 第2回: 子どもの美術に関する理論 第3回: 子どもの美術に関する事例 第4回: 幼児期・児童期における美術学習の意義 第5回: 青少年期における美術学習の意義 第6回: 学習者中心の美術教育 第7回: 美術学習における教材・資料の評価 第8回: 美術学習における教材・資料の活用(教材研究と情報機器) 第9回: 小中学校における美術教育実践(指導案作成と模擬授業) 第10回: 高等学校における美術教育実践(指導案作成と模擬授業)		
成 績 評 価 方 法	授業時のパフォーマンス(30%)とレポート(70%)により、学習の到達状況を評価する。		
テ キ ス ト	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、「高等学校学習指導要領」(最新版)		
参 考 文 献	必要に応じて授業時に紹介する。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	自分や身近な人々の、子どもから青少年期にいたるまでの発達と美術学習との関係について関心を持ち、資料を集めたり考察を加えたりする。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	学習者の立場に思いを巡らせながら、美術を学ぶことについて幅広い視点でとらえ、自らの指導法を作り出していく基礎にしたいと思います。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応します。		

授 業 科 目 名	美術科指導法演習 I (Practice of Teaching Art I)		
科 目 番 号	9477001	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2・3 年次
実 施 学 期	春 C	曜 時 限	月曜・5、6 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	直江 俊雄 (芸術学系棟 B331 TEL 853-2821) 電子メール naoe*@*geijutsu.tsukuba.ac.jp **の*は削除して使用のこと。 研究室 URL <a href="http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/">http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/</a>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12 時 30 分～13 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	美術科における映像メディアにかかわる学習の立案と教材開発を行う能力を身につける。		
授 業 の 概 要	この授業では、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における積極的な教材開発と遂行・評価を行うための基礎となる理論や方法について様々な活動を通して学び、実際に学習プランと教材を作成する。		
授 業 計 画	第1回:受講案内 第2回:美術・デザイン教育概論 第3回:美術学習に関するワークショップ 第4回:美術学習への批評的接近 第5回:教材の発想と資料収集 第6回:学習指導案の作成 第7回:学習指導案の評価 第8回:教材の開発・作成と情報機器 第9回:授業展開のプレゼンテーション(模擬授業) 第10回:まとめと課題		
成 績 評 価 方 法	授業時のパフォーマンス(模擬授業を含む、50%)、レポート等の提出(50%)により、学習の到達状況进行评估します。		
テ キ ス ト	必要に応じて授業時に紹介します。		
参 考 文 献	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、 「高等学校学習指導要領」(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	学習指導立案のための資料収集、指導案や教材の作成、授業展開方法の考案など。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	各自がそれぞれの指導案作成と教材研究を行い、模擬授業まで取り組みますので、自分で工夫した授業を実践してみる喜びが味わえます。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応します。		

授 業 科 目 名	美術科指導法演習Ⅱ (Practice of Teaching Art Ⅱ)		
科 目 番 号	9478001	授 業 形 態	演習
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2～3 年次
実 施 学 期	秋B	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	石崎 和宏 (芸術学系棟B435 Tel 853-2707) ishizaki#@#geijutsu.tsukuba.ac.jp (「#@#」を「@」に置き換えてください。) 研究室 URL <a href="http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~ishizaki/Arts_Education_Course/Home.html">http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~ishizaki/Arts_Education_Course/Home.html</a>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	受講者自身の制作と学習経験をふまえながら美術教育の理念と課題についての意識を高め、美術の表現と鑑賞に対する生徒の学習意欲を高めるための具体的方策が提案できるようにします。		
授 業 の 概 要	この授業では、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における学習指導と教材開発のための基礎的な観点や方法について検討します。特に、受講者自身の学習経験をふり取りながら美術教育に対する問題意識を高め、その問題意識に関連させて美術の教材開発の視点をグループで検討し、授業の導入で活用する資料やツールを作成し、模擬実践します。		
授 業 計 画	第 1 回: 受講案内 第 2 回: 複眼的に美術教育を考えよう 第 3 回: 美術学習における動機付けと教材開発 第 4 回: 動機付けを生かした美術鑑賞 第 5 回: 美術鑑賞の深まりをどう考えるか? 第 6 回: 導入で活用する資料やツールの立案 第 7 回: 資料やツールの中間発表 第 8 回: 資料やツールの制作 第 9 回: 資料やツールを使った導入のミニ実践 第 10 回: まとめとレポート作成		
成 績 評 価 方 法	授業時のグループワーク(30%)、資料やツールの作成(30%)、導入のミニ実践(20%)、まとめのレポート(20%)を総合して評価します。		
テ キ ス ト	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』(日本文教出版, 2018 年)、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』(教育図書, 2019 年)、その他、必要に応じて、授業時に紹介します。		
参 考 文 献	石崎和宏・王文純『美術鑑賞学習における発達とレポートリーに関する研究』(風間書房, 2006 年) 玉川信一・石崎和宏 編『アートでひらく未来の子どもの育ち:未来の子どもの育ち支援のために』(明石書店, 2014 年)、パーソンズ, M. J. (尾崎彰宏・加藤雅之 訳)『絵画の見方』(法政大学出版局, 1996 年)、福田隆眞・茂木一司・福本謹一 編『美術科教育の基礎知識』(建帛社, 2010 年)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	参考資料の調査、資料やツールの制作、中学校、高等学校での公開授業研究会などへの自主的参加など。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	日頃の制作活動や鑑賞の経験をふりかえり、美術を通して味わう楽しさや魅力を生徒にいかにも味わってもらえるのかを柔軟に考え、さまざまなアイデアを出してほしいと思います。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応する。		

授 業 科 目 名	造形教育論Ⅰ (Art and Design Education I)		
科 目 番 号	9478111	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2-4 年次
実 施 学 期	春 AB	曜 時 限	木曜・2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	箕輪 佳奈恵 (芸術学系棟 B538 TEL 853-2834) 電子メール minowa*@geijutsu.tsukuba.ac.jp 直江 俊雄(芸術学系棟 B331 TEL 853-2821) 電子メール naoe*@geijutsu.tsukuba.ac.jp (*は削除して使用すること)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	箕輪:火曜日 12 時 30 分～13 時 30 分 直江:水曜日 12 時 30 分～13 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	美術教育と多様な文化との関わりについて、歴史的経緯や社会状況を踏まえながら認識を深め、学校における美術教育を文化的な文脈からとらえる意義について理解する。		
授 業 の 概 要	この授業では、多文化美術教育の基本理念を軸として、多様な美術教育のあり方を考えます。現代社会の動向に鑑み、日本および諸外国における美術教育について多文化的な視点から検討すること、そして実践的・体験的な活動を通して学ぶことを重視しています。		
授 業 計 画	第1回:オリエンテーション 第2回:多文化美術教育の理念 第3回:多文化美術教育の発祥と歴史的経緯 第4回:多文化美術教育の事例検討① 第5回:多文化美術教育の事例検討② 第6回:美術教育を文化的文脈から考える:諸外国の事例をもとに 第7回:美術教育を文化的文脈から考える:日本の事例をもとに 第8回:多文化社会と美術表現 第9回:これからの美術科授業 第10回:まとめと課題 定期試験		
成 績 評 価 方 法	授業内で取り組む小レポート、および宿題などの提出物(60%)、期末試験(40%)		
テ キ ス ト	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、「高等学校学習指導要領」(最新版)		
参 考 文 献	必要に応じて、授業時に紹介します。		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	美術の学習を学校の一科目としての認識にとどめず、多様な文化や社会との関わりから考える習慣をつけると、講義をより深く理解することができ、充実した学びになると思います。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	講義はグループでの活動を多く取り入れて行いますので、人の意見をよく聞くこと・自分の考えを積極的に発信することが求められます。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応します。		

授 業 科 目 名	造形教育論 II (Art and Design Education II)		
科 目 番 号	9478121	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	2-4 年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	木曜・2 時限
対 象 学 群 ・ 学 類	全学群		
担 当 教 員 ( 連 絡 先 )	直江 俊雄 (芸術学系棟 B331 TEL 853-2821) 電子メール naoe* <a href="mailto:naoe*@geijutsu.tsukuba.ac.jp">*geijutsu.tsukuba.ac.jp</a> *@*の*は削除して使用のこと。 研究室 URL <a href="http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/">http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~naoe/</a>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12 時 30 分 ~ 13 時 30 分		
授 業 の 到 達 目 標	芸術による教育の理論を批判的にとらえ、現代に対応した造形教育論の考察と実践を行う力を身につける。		
授 業 の 概 要	この授業では、中学校美術科・高等学校芸術科(美術)における積極的な教材開発と遂行・評価を行うための基礎となる理論について学び、実際に学習プランと教材を作成する。		
授 業 計 画	第1回: 受講案内 第2回: 芸術による教育 第3回: 教育の目的 第4回: 芸術の定義 第5回: 学習者の発達と教育 第6回: 教育課程 第7回: 教育環境と教師(教材研究と情報機器) 第8回: 学習活動の計画(指導案作成) 第9回: 学習活動の実践(模擬授業) 第10回: まとめと課題		
成 績 評 価 方 法	授業時のパフォーマンス(40%)とレポート(60%)の提出により、学習の到達状況を評価します。		
テ キ ス ト	ハーバート・リード著、宮脇・岩崎・直江訳『芸術による教育』(フィルムアート社、2001 年)		
参 考 文 献	『美術科教育の基礎知識』(建帛社、2010 年)、文部科学省「中学校学習指導要領」(最新版)、 「高等学校学習指導要領」(最新版)		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	関連テキストや参考文献を読み、各自の芸術に関する取り組みなどを踏まえてよく考察すること。		
受 講 学 生 に 望 む こ と	芸術と教育の関わりについて、自分らしい視点で考えることを心がけてください。		
備 考	免許法に基づく中学校・高等学校(美術)の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」のうちの 1 単位に対応します。		